

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ園立ててく4

国立市立国立第七小学校

平成28年7月4日 NO.30 (330)

花ちゃん 「ねー。オー君。^{こうてい}校庭にネジバナ
が咲^さいているの知^しってる？」

オー君 「何^{なに}！ネジリパンがどうしたの。」

花ちゃん 「ネジリパンではありません。ネジバナです。
ピンクと白^{しろ}のまざ^{ちい}った小さな
お花^{はな}がねじれて咲^さいているでしょう。
ラン科^かの花^{はな}でカトレアと同じ仲間^{おな なかま}よ。
とってもきれいな花^{はな}よ。」

オー君 「何^{なに}！名探偵コナンに出てくるランちゃん^{めいたんてい}が
カトリセンコウでどうした？」

花ちゃん 「ランちゃんではなくて、ラン科^か。カトリ
センコウではなくて、カトレアよ。」

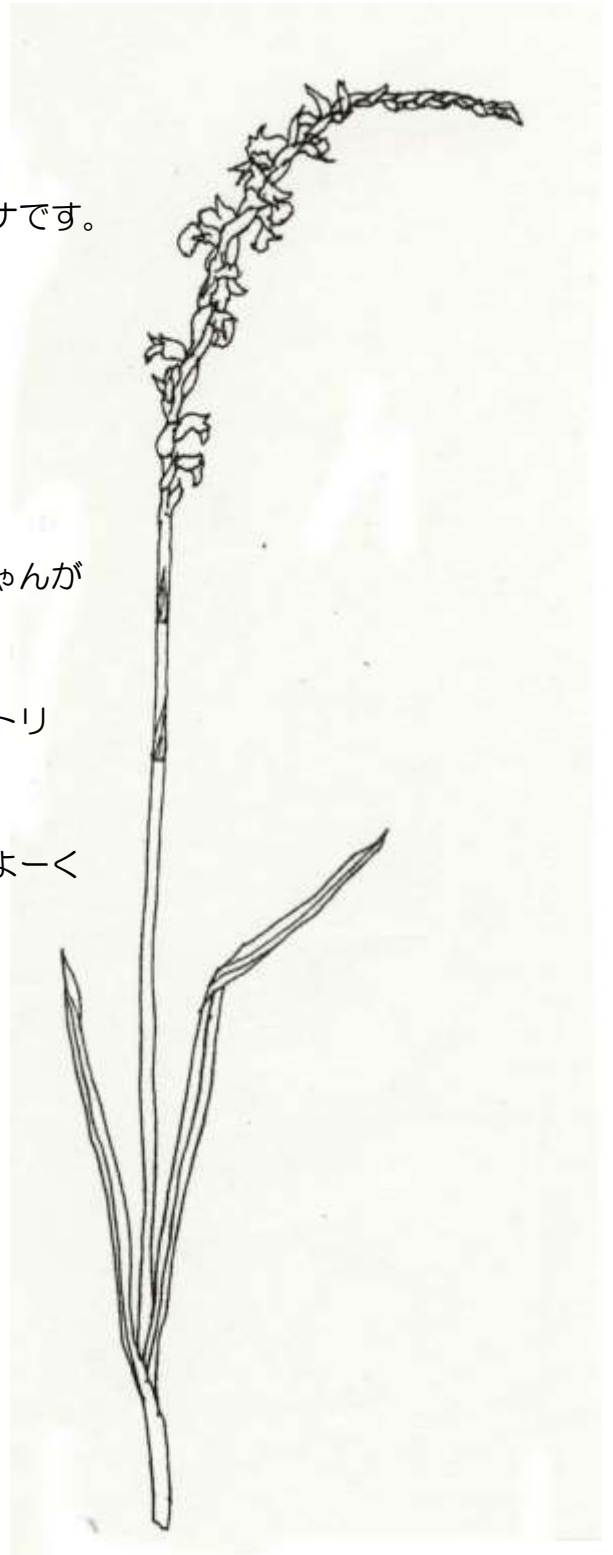
オー君 「なーるほど。どれどれ、おいらにもよーく
見^みせておくれよ。ふむふむ、小せえ
花^{はな}だな。でもきれいだ。」

花ちゃん 「私^{わたし}はこのネジバナが大好き^{だいす}なんだ。
何^{なん}と言^いっても色^{いろ}がステキよね。
オー君もそう思^{おも}うでしょう。」

オー君 「うん…。あれ？へんだぞ。」

花ちゃん 「何^{なに}がへんなの。どうかしたの。」

オー君 「おかしいんだ。へんなんだ。
どのネジバナも同じ^{おな}ねじれ方^{かた}を
しているのかな、と思^{おも}って見^みて



ネジバナ(ラン科)

いたら…ほら。右まきと、左まきの両方あるよ。」

花ちゃん 「ほんとだ。ねじれ方がちがうんだ。オー君よく気がついたわね。すごい！」

オー君 「じっくりと、しっかりと、ゆっくりと、ながめていると、いろいろなことに気がつくもんだね。でも、ネジバナって右まきと左まきとどっちが多いかな。」

花ちゃん 「そうだ。オー君。たくさんとって調べて見ましょう。右まきが何本か。左まきは何本かをグラフや表にしてみよう。」

オー君 「OK。楽しそうだ。やってみよう。」

モンタ博士 「ふむふむ。なるほど。二人とも科学的に見ることに慣れてきたみたいだね。自分で見たことや調べたことを数字で表したり、比べたりするというのは、りっぱな科学的な方法だね。感心だね。100本くらい調べるといいよ。」

オー君 「え！ひゃ、ひゃ、100本！何で100本も調べた方がいいの。」

モンタ博士 「それはね、10本くらいではどちらかにかたよることがあるからさ。」

花ちゃん 「右まきと左まきとどっちが多いんですか。モンタ博士は調べたことがあるの。」

モンタ博士 「うん。30年も前に同じようにふしぎに思って調べてみたのさ。答えはね、
・・・。モンタ博士は教えないよ。二人でやってみてごらん。自分でやってみたら、なっとくするもんね。これはすばらしい実験になるよ。」

花ちゃん 「やってみます。ところで、ネジバナはどうしてねじれているのかな。」

オー君 「えっ！ネジバナだからねじれているのさ。いやちがう。ねじれているからネジバナなのさ。あれ？わかんなくなっちゃった。こまったな。」

モンタ博士 「それもどうしてだろうね。自分なりにいろいろと考えてみよう。考えること、あれこれと想像することはいいことだよ。」

ネジバナ讃歌

ラン科植物は、植物全体から見ると、双子葉類のキクと並び、最も進化した単子葉植物群である。ネジバナの花の形はカトレアとまったく同じであるが、やや花の大きさが少し小さめなのが残念。ネジバナは酸性の土壌を好み、芝生の中などにもよく生えて丈夫だ。ラン科の植物は森の中か湿地に生えるものが多いが、本種だけは、なぜか乾きやすいところにも生育できる。また、ネジバナはラン科にしては珍しく栽培が簡単である。というモンタ博士のおうちにもネジバナがあり、今、そのかわいく美しい花を咲かせ、目を楽しませてくれている。ルーペなどで見ると、はっとするほど華やかなうす紅色である。小さな筒の中から、ペロッと舌を出しているような花の形には、とても愛嬌がある。梅雨のこの季節、雨にうたれながらもすくっと立っている姿もまたいいものだ。

おわび…学校だよりでもお知らせしましたが、7月16日(土)夜に計画しておりました育成会の「一橋大学でカブトムシをとろう」という行事は階級の都合により中止することになりました。申し訳ありません。ご了承下さい。